

むれこう

牟礼港（県管理地方港湾）

牟礼港は美しい五剣山を背後に控え、志度湾に臨む、庵治半島の基部に位置しています。

本港の歴史は古く、かつて讃岐の各郡が一つずつ港を持っていたころ牟礼港は、三木郡（旧木田郡の牟礼町・庵治町・三木町）唯一の海の玄関として砂糖、米、塩の積出し等で賑わいました。

また、明治に入っては背後で良質の粘土が算出することから、港の周辺は窯業の町へと一変し、港は窯の煙突で取り囲まれるほどとなり、浜には土管、レンガ、コンロ等の製品が並べられ、機帆船で各地へ出荷されました。

窯業は昭和40年頃から衰退し、代わってコンクリート製品化が進んだため、現在の港湾貨物は砂・砂利等が大半を占めるようになっていきます。

また、本港周辺海域では、ノリ、カキ等の養殖業も盛んであり、平成10年度に新たな物揚場が整備され、背後地域は高松市のベッドタウンとして急激な都市化も進んでいることから、今後はこのような、新しいニーズに応えた総合的な港湾としての発展が期待されています。

